

新版「書写」教科書 Q & A

子どもたちの意欲を引き出せるよう、さまざまな工夫がなされた新版教科書。新しい教科書を手に取られた先生方から寄せられた質問に、ペンちゃんとピツちゃんがお答えします。

先生方の疑問に、
ぼくたちが答えるよ！



ピツちゃん

ペンちゃん

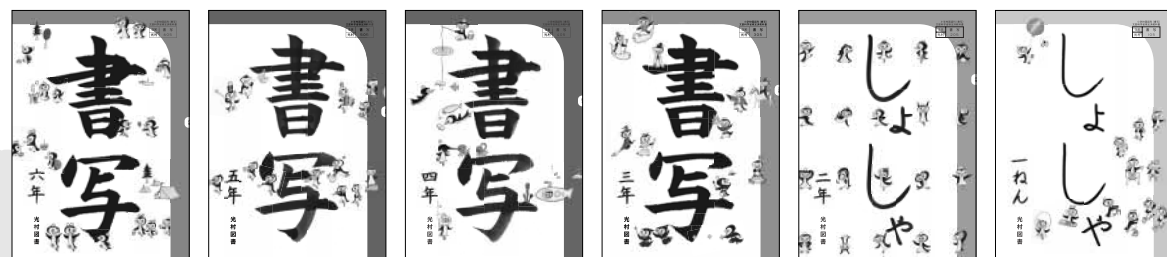
イラスト：荒井良二

Q1 表紙のタイトル文字が各学年で違うのはなぜですか。

A1 書き文字ならではのよさを感じてほしいという願いを込めました。

文字の太さや墨の濃淡、用紙の違いなどによる書き文字ならではの表情を感じてもらいたいと考えました。また、タイトル文字に加え、子どもたちの身近な事柄をテーマにしたイラストを入れることで、書写の学習に、より親しみをもってもらいたいと願いました。

各学年の特徴は次のとおりです。



- 6年** 少し大人っぽくにじみをもたせて。イラストのテーマは「キャンプ」。
- 5年** 筆の動きの跡が見えるように。イラストのテーマは「鼓笛隊」。
- 4年** 少し薄い墨色ですっきりと。イラストのテーマは「海水浴」。
- 3年** 濃い墨でしっかりと。イラストのテーマは「学芸発表会」。
- 2年** 太いフェルトペンで。イラストのテーマは「体操」。
- 1年** 細いフェルトペンで。イラストのテーマは「学校生活」。

Q2 学習指導要領に新しく示された毛筆の特性を、どのように扱っていますか。

A2 墨の濃淡で、穂先の向きや穂先の動きをわかりやすく示したり、擬音で筆圧を解説するなどの工夫をしました。



ペンちゃんの動きと擬音で、筆圧を表現することで、力の加え方のイメージがふくらむように工夫しました。

穂先を濃い墨で示すことで、穂先がどのように動いているのかが見えやすくなります。

新版教科書では穂先の通る軌跡がはっきりわかる墨の濃淡による表示を、これまで以上に多く用いています。これにより、曲がりの部分の穂先の向き、はねたところの穂先がどこから出ているのか、画の重なり方などが、鮮明にわかるので、子どもたちが実際に書くときの参考としてたいへん役立ちます。それから、穂先の向きを「穂先マーク」で示したりするなど、細かな工夫も施しています。

また、中学年では筆圧のイメージをもたせるため、ペンちゃんが、「トン」「スーッ」「グッ」などという擬音とともに、全身の動きで示しています。



3年 P20

「穂先マーク」で、穂先の向きを視覚的にしっかりとらえることができます。

編集こぼれ話

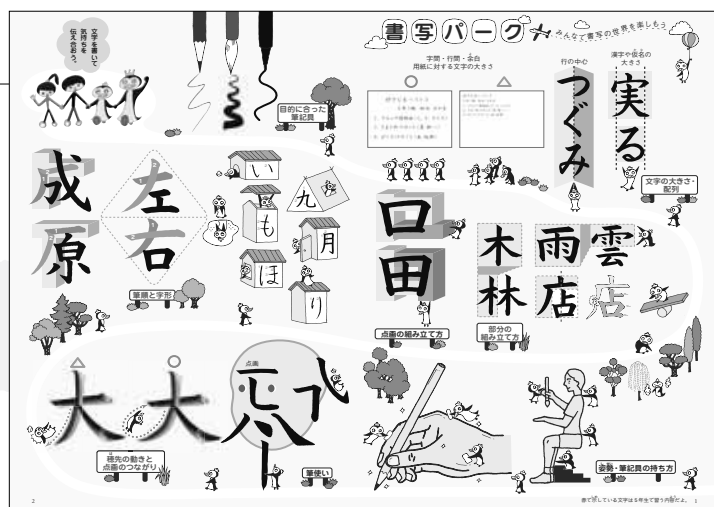
この墨の濃淡で示した教材文字は、宮澤正明先生（山梨大学教授）が書かれました。画によって墨の濃淡の具合が変わらないように気をつかいながら、一教材を仕上げるのに、だいたい三十〜四十枚は書かれたそうです。

書くスピードは、実際に書くときと同様で、必要以上にゆっくり筆を運ぶと、蛇の鱗のような模様ができてしまうそうです。墨の作り方も大事で、濃すぎてもだめ、薄すぎてもだめ。また、穂先から根元まで全体の濃淡のバランスも微妙な加減が必要です。さらに用紙選びには苦労されたそうで、印画紙やボール紙、フィルムなどいろいろなものに書いてみて、やっと現在の用紙にたどり着きました。

試行錯誤を繰り返し、これらの教材文字はできあがりました。



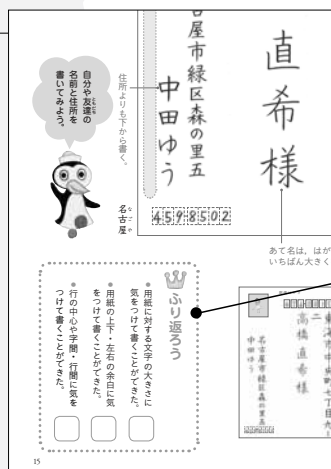
教材文字を書く宮澤先生と、それを撮影するカメラマン。



「書写パーク」 5年P1-2

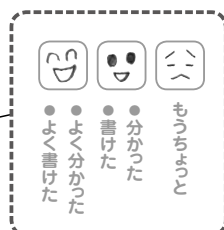


「学習の進め方」 4年P2



「ふり返ろう」 6年P15

各教材の終わりに、
自己評価欄を設けた。



記入欄には、このように顔
の表情を書き込んでもよい。



教科書を拡大して、学習のねらいをしっかりと押さ
えることができる。もちろん書き込みも可能。

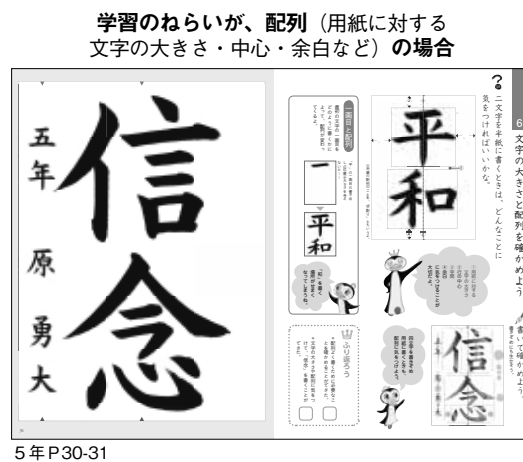
▶詳しい内容を弊社HPからご覧いただけます。
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp/digital/>

「書写デジタル教科書」では、教科書
の画面を大きく映し出せ、全員で同じ画
面を見ながら学習することが出来ます。
必要に応じて教科書を拡大したり、書き
込みをしたりすることができ、授業がよ
り楽しくなります。
また映像で穂先の動きを示したり、筆
圧をわかりやすく提示したり、授業に役
立つコンテンツも多数収録しています。

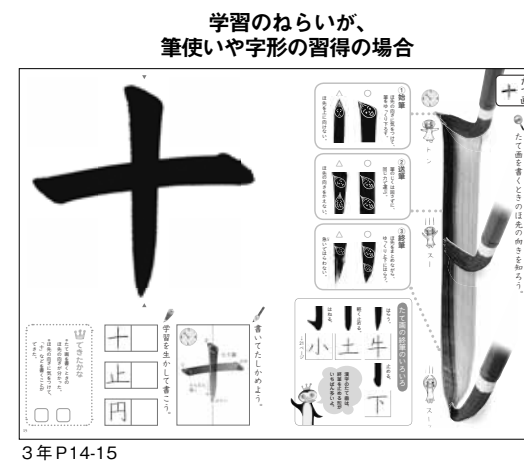
A5 今春、「書写デジ
タル教科書」が誕生し
ました。書写の授業がもっ
と楽しくなる指導用ソフト
ウェアです。



Q5 書写の「デジタル教科書」が
あると聞きました。どのよう
な内容ですか。



5年P30-31



3年P14-15

新版教科書では、それぞれの教材のめ
あてに沿って、毛筆大字教材の示し方を
変えています。毛筆の筆使いを学ぶ教材
では、半紙の中にどう収めるかよりも、
筆使いがよくわかるように、教材文字を
できるだけ大きく示しました。
一方で、書き初めなどの配列（用紙に
対する文字の大きさ・中心・余白など）
を学習する教材には、用紙に対してどの
ように文字を配置するかということが大
切になるので、半紙や書き初め用紙の枠
をつけて提示しています。

示し方を変えること
で、めあてを焦点化
しているんだ。



Q3 半紙の枠が紙面に示されてい
ないのは、なぜですか。
A3 毛筆の筆使いを学ぶ
教材では、半紙の中
にどう収めるかよりも、筆
使いがよくわかることを重
視しました。



四年生以上の巻頭には「学習の進め方」
を示しました。これで、一時間の学習の
流れをつかむことができます。また、こ
れまでに習ったことと、これから習うこ
とを、学年の始めに見通すことができる
「書写パーク」を掲載しました。
また、一・二・三年には「できたかな」、
四・五・六年には「ふりかえろう」という、
自己評価欄を設け、主体的な学習を促し
ています。

A4 四年生以上の巻頭に
「学習の進め方」を
示したり、「書写パーク」
掲載しました。また、自己
評価欄も設けています。



Q4 子どもたちが主体的に学べる
ように、どのような工夫がさ
れていますか。